

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和4年 8 月 3 日

三田市議会議長 北本 節代 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	厚地弘行
		議員名	佐貫尚子
派遣者氏名	厚地弘行 北本節代 中田哲 佐貫尚子		
視察先及び 調査事項 (調査目的)	三重県津市 小中一貫教育・義務教育学校の取り組みについて		
日 時	令和4年7月25日(月) 14時00分～16時00分		
視察先対応者	教育委員会事務局 理事 伊藤雅子氏、同局教育研究支援課長 奥田幸伸氏、同課学校教育担当 舟橋裕子氏、同課学校運営相談員 鈴木智巳氏、津市立みさとの丘学園校長 長井孝子氏		
(調査結果の概要及び所見)			
小中一貫教育について ～小学校から中学校への系統的・連続的な教育の実施～ 【当初の課題】 ○基礎的な知識、技能を活用する力の不足 ○家庭学習習慣の未定着 ○中学校進学時に不登校生徒の増加(中1ギャップ) 【目的】学力の向上・学校生活の充実・豊かな人間性や社会性の育成 二つの柱 1つ目の柱⇒学力向上 【授業改善への主な取り組み】 ○授業改善 ・授業方法の研究・専門家からの指導 ○小中合同研修会 【多様な人材の活用】 ○多様な人材の活用 ・津市臨時講師・特別支援教育支援員・スクールカウンセラー等 ○小学校での教科担任制 ○小中相互の乗り入れ授業(校舎が敷地外の場合は移動が課題。) 【英語力の向上】 ○ALT・英語教育推進指導員による外国語活動の充実 ○英語教育推進研修会開催による授業力の強化 ○7年間の英語カリキュラム			

2つ目の柱⇒学校生活の充実⇒安心して過ごせる学校づくり

【指導の方向性統一】

- 生活の決まり統一 ⇒再編当初は戸惑いも
- 家庭学習の手引き作成
- 読書活動の推進 ・中学校区へ司書の配置 中学校区内小学校巡回

【学校生活の不安解消】

- 児童生徒の交流活動 ・人権フォーラム・合同文化祭
- 不登校の未然防止 ・欠席状況等の情報共有

【地域の教育力の活用】

- 保護者・地域との合同活動 ・避難訓練・清掃活動・ノーメディアデーの取組

中学校区ごとに 独自の取り組み(英語の7年間カリキュラム、自宅学習の定着への取組、ノーメディアチャレンジ等)

◆学力の向上◆『わかる授業・できる授業』への授業改善促進◆小学校から中学校への円滑な接続◆生徒指導の方向性の統一◆地域と連携した教育活動の充実

⇒目指す子供像の共有・系統立てたカリキュラムの検証と活用・柱となる取り組みの推進

⇒新学習指導要領の着実な実施、GIGAスクール構想の実現

【成果】

授業改善⇒中学校の先生が小学校の授業を、小学校の先生が中学校の授業を(乗り入れ授)特別支援・ICT・人権等の研修を中学校区単位で、合同で行う。

多様な人材の活用⇒特別支援員・スクールソーシャルワーカー・市職員・司書等、中学校区内で人材の共有化・乗り入れ化・兼務発令。

英語⇒小中の接続強化⇒小学校英語カリキュラムを中学校が作成。

読書週間、ノーテレビ、清掃活動等 中学校区発の独自の取り組み。

保護者との情報共有、文化祭等行事の共有化。

中学校区に推進協議会設立⇒計画を策定⇒教育委員会へ。

中学校区内小学校同士でICT技術利用し相互に授業公開等。

不登校 7%⇒2%

中学生(7から9年生)が小学生低学年児童のフォローを⇒相互に教育的効果。

グループ学習の多様⇒教え合い、学校内に模擬社会を創る。

【課題】

更なる教育の効率化、物理的な距離課題、こどもの地域の課題多種多様化⇒中学校単位で整理

中学校区内の小学校同士の横のつながり強化、地域・保護者の協力関係、家庭学習の習慣

中一ギャップ不登校、中学校進学時やコロナによる不登校増加。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入してください。

個人支給の場合、会派名[無会派は記入不要]、議員名[代表者名は記入不要]を記入してください。

所見

三重県津市立みさとの丘学園 小中一貫教育について

全国的に少子化問題がある中、津市立みさとの丘学園は東海3県で初めての義務教育学校としてH29年4月に開校した。

津市美里地域は長野、高宮、辰水小学校の3校で統合が検討され、H19年度に検討が開始し、H25年度には津市全域で小中一貫校教育を推進していく方針が示されたため、美里中学校を含めて施設一体型の小中一貫校を設置することとし、H28年4月開校を目標にあげたが、地元からの要望と学習環境の整備を理由とし、H29年4月に開校時期を遅らせる事を決定し、H28年の学校教育法改正に伴い義務教育学校が法制化されたことを受け義務教育学校とすることが決まり津市議会で「みさとの丘学園」とすることが議決された。

校地は美里中学校を活用し、9億円かけて校舎を増築、エアコンも設置された。

学校運営の目標として、中1のギャップ解消と英語教育の充実をあげているとのこと。

小学校6年、中学校3年の義務教育を一貫したカリキュラムで効果的に行う学校。

義務教育学校は1年生から9年生となり、小学校の6年間で前期、中学校の3年を後期とし本来であれば、入学式、卒業式と区切りのセレモニーが行われるが、9年間の義務教育学校となるので、セレモニーとして縮小した形をとっているとのこと。

7年生が本来中学1年となるが、7年生と呼ばれ、中学生になりたかったと漏らす生徒もおられたとのこと。

また、前期の1年から6年までは私服、後期中1から中3までは制服とし、学年の切り替わりを生徒自身に認識させる意味でその形をとっていた。

通学に関しては、3つの小学校校区を再編したため、前期児童はスクールバスが運行され後期課程生徒は基本的に自転車通学を行っている。

学校の生活の中では前期と、後期では授業時間が違うので、始まりのチャイムだけが鳴らされているとのこと。また、不登校などが増える中で、9年間同じクラスで過ごす事などについては、中1ギャップの軽減とゆとりのある教育の実現を目指している。

特に、不登校についてお聞きすると、現在1人おられるとのことだったが、長期にわたるようなことではないとのこと。

学校行事等については、運動会は全学年、文化祭は前期課程が「美里創造学習発表会」後期が「文化祭」児童会と生徒会は行事により別々の活動や合同でもやることもある。

修学旅行は前期、後期別々に行っている。

行事の課題としては前期課程の保護者から、体育祭が合同で行われることにより、わが子の活動機会が少なくなることへの不満あるなど課題は多い。

こうした義務教育学校の中で児童、生徒に生活や、推進する英語教育、グループ学習友達との関わり方等に対し、アンケートもとられており、どの設問の答えでは90パーセント以上の満足度の結果が出ていた。

良い事ばかりではないのは承知するが、昨今、人との関わり、相手に対する思いやりなど

にかける人が多くなる中で、小学1年生から中学3年生までが同じ敷地内で日常生活を送ることで、リーダーシップ、優しさ、協調性等人生でもっとも大切な時期にこうした環境の中で過ごす事は、少人数で生活するよりもメリットは大いにあると感じる。

ただ、みさとの丘学園初代校長先生はこれまで、小規模校を誇りに思って取り組んできたがしかし、本当にこれで良いのか、未来を考えると、小規模は対一でその子自身を見る事ができるメリットはあるが、何でもかんでも手をかけ、目をかけてしまう事が良い事なのかと考える時期もあったと話され、今、まさしくそうした課題が三田市にもあると感じる

統合にあたっては、この地も高齢者や地域の方が反対された経緯もある、県で再編統合が決定される事により、地域の方々もしっかりと考えてくれるように進んだとのこと。

義務教育学校設置にたどり着くまでは、三田市でも課題となっている、地域の方々への説明等、本当に丁寧に進めて行くことが必要不可欠と改めて感じた。

再編統合については、各学校で保護者が集まる機会を得て、校長先生が保護者に説明をする機会も持つなど、教育員会任せではないこと。これは大きなことだと思う。

現場サイドから説明には説得力もあるようにおもった。

三田市でも小中一貫教育も考える中で、メリット、デメリットを明確にし、この問題は長期的に住民、保護者に丁寧に説明責任を果たすことに尽きると思う。

まずは、再編について結論をだし、その結果が出てから設置に関わる校名や、通学のあり方等、順に進めて行くことが少しでも進む方法だと感じる。新しい学校への希望が見えるように進めることも今後の課題だと感じる。

報告書には書ききれない内容、課題等も多々あるが三田市の教育にとって大変、参考となった視察となりました。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和4年 8 月 3 日

三田市議会議長 北本 節代 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	
		議員名	佐貫尚子
派遣者氏名	厚地弘行 北本節代 中田哲 佐貫尚子		
視察先及び調査事項 (調査目的)	滋賀県甲賀市 廃校を利用した養殖事業について		
日 時	令和4年7月26日(火) 10時00分～11時50分		
視察先対応者	甲賀市総合政策部オール甲賀推進室 室長 清水達也氏、同部政策推進課 平井慧伍氏、甲賀市教育委員会事務局教育総務課教育環境整備室 室長補 佐 田中克司氏		
<p>(調査結果の概要及び所見) 別紙でも可</p> <p>海なし県の滋賀の山中でトラフグやヒラメなど海の高級魚の養殖を行っている。 独自の水質浄化システムを開発した草津市の株式会社ウイルスステージが水を長期間循環 させて、取り換えずに飼育を継続する事に成功。海で育った海水魚に比べて毒や寄生虫の リスクが無いという利点があり、全国から注目を集める。</p> <p>□閉校から事業開始への経緯</p> <p>～平成30年1月 再編検討会議全22回開催 先進地視察・ワークショップ等 平成30年 3月 各区懇談会(ワークショップ形式) 平成30年 4月 地域住民による検討協議会において、民間活用の方向性を決定 10月 議会へ報告、民間調査結果を基に施設利活用にかかる支援策決定⇒無償 貸与・初期投資支援5000万円。その間活用検討会議5回開催 平成31年 3月 公募型プロポーザル審査⇒株式会社ウイルスステージを選出 令和 元年 8月 養殖施設視察 9月 基本協定締結 10月 地域住民との意見交換会 令和 2年 2月 普通財産使用貸借仮契約 4月 施設改修工事開始 9月 試験養殖開始</p>			

□プロポーザルにおける主な選考理由

- ①事業に独自性があり、地域活性化への意欲が高い事。
- ②事業者の経営状況が優れており、継続性が期待できること。
- ③他の提案と比して、市に求める負担が少ない事。

他の候補事業案 バイオマスチップの製造拠点案、サッカー教室運営案

□事業費 72,300 千円

施設整備費（行政負担） 44,500 千円

○施設全体 24,500 千円

基幹給電設備、壁床面改修、見学対応、校庭周辺電源設備、周辺防犯灯等

○教室、特別教室、プール等 20,000 千円

給排水設備、照明設備、換気システム、断熱設備、空調設備整備、給電設備整備、プール簡易屋根設置、思い出教室等

事業設備（事業者負担） 27,800 千円

○養殖設備事業 17,800 千円

養殖魚水槽設置、浄化システム設備等

○グランピング及びサイクルツーリズム拠点整備事業 10,000 千円

植栽工事、グランピング備品、レンタサイクル車両、ウェブサイト構築費用

天然のトラフグは海で貝や藻類を食べて毒成分を体に備えるが、この養殖方法だともとから毒を持たない。また、人工海水で水質を管理する為寄生虫に感染するリスクもない。

漁業権が絡んで新規参入が難しい海面での養殖と異なり、赤潮など海洋環境に左右されないなどのメリットもある。

所見

滋賀県甲賀市旧山内小学校廃校跡活用による養殖事業について

市立山内小学校については、甲賀市の学校再編計画により、土山小学校に統合されるような形で閉校となり、あくまでも校舎を転用できるような形にするため休校ではなく H29 年 3 月に閉校の措置がとられた。

閉校後、令和元年、9月に跡地利用に関して世界遺産平等院の池や、皇居外堀などの水質浄化に実績を持つ企業ウイルスステージと協定を結び、協定以前からウイルスステージは 2018 年に養殖に特化したアクアステージを設立しており、その取り組みを活かし廃校となった校舎の教室に水槽を設置し、ヒラメ、トラフグ、マス、クルマエビ、サバ等の陸上養殖がおこなわれている。契約としては公募型プロポーザル審査、継続性のある事業者である事等で選考される。10年間の無償貸与、概算総事業費市負担分地方創生拠点整備事業補助金を活用含んだ7230万。今後、大規模な改修はする予定はない。グラウンド等の草刈りは市が行っているとのことであった。こうした旧校舎や園舎を用いた養殖事業は滋賀県内では初めてであり、24時間の浄化装置を作動させ、長時間にわたって水を替えない「完全閉鎖循環陸上養殖」が行われている。今後はグラウンドにグランピング施設として活用する予定とのことであった。

廃校跡地利用が全てスムーズにいったわけではなく、その地域に廃校跡の跡地利用について協議はされたとのこと、地域でなんとか活用できないものかと協議は行われ、また行政も利用に関して協力もするとのことであったが、地域でこの規模を活用するのは難しいと結論がだされた。しかし、廃校跡がそのままになって廃墟化する心配の声があがり、少しでも地域が活性化される方が良いとの意見が出され跡地活用について協議がされる。

そもそも、閉校となっていった経緯は、子どもが減少し、徐々に保護者が他の学校へ転校させる動きが出るなど、もうこれ以上この学校で学ばせる事はできない。多くの仲間のいる所で学ばせたいと、保護者や、地域からの声があがってきたことをきっかけに閉校へと進んだようである。市でも地域の声に耳を傾けてはいるが、地域、保護者から必然と少人数での教育が、子ども達にとって、良いのか、悪いのか、勿論、少人数も多く利点はあるが、地域に住む人たちからこれでは子供たちの将来が心配だと、自分事に考えてくださる方たちの協議会のメンバー選出も大切と改めて感じた。説明職員から出された意見では、もっとも重要としたことは、協議会のメンバーであり、代表となるかたの人選、そして他人ごとではなく自分のこととして考えてくださる方を選べたのが良かったように思うと話されていました。なるほど、その通り自分が子育て世代なら・・・本当にこの教育環境で納得できるのかと考えられる方が入ってくださるのは本当に重要だと感じ、様々な経緯があったことを確認する。閉校跡の学校はなんとも言えない状況下で、私からすると廃墟化に近いものであった。勝手に存分に整備された教室に水槽が設置され、水族館のようにも想像していたのか教室に置かれたビニール製の水槽に稚魚が泳いでいる、その水槽には浄化装置が備えつけられ、稚魚が放つ尿、糞等が浄化されているとのこと。そして川魚の稚魚も養殖されてい

るが、川魚は水温が低いと温度調節も難しく、その水温のストレスに耐え切れない稚魚は新でしまうとのことでした。一方で、去年はコロナの影響もあったが、トラフグを料亭に出荷できたとのこと。管理をする担当者は今後、ウナギなども手掛けていく予定だと話され甲賀ブランドして、魚の加工した物を直場所や、道の駅などで販売していきたいとのこと加工などができるようになれば、雇用の促進にもつなげられるのでは思うところです。

餌やりも、スマホ一つでできるシステムで、先端技術も取り入れ今後の発展が楽しみである。三田市もこれから統廃合が進められ行くが、その後の跡地活用も前面にだすタイミングもかなり重要で、まず、統廃合によって子ども達の将来が明るいものとなるような住民、地域への丁寧な説明が大切だ。理解が得る事ができると跡地活用のアイデアも更に良いものが提案されていくのではないかと考える。

統廃合の問題、跡地活用、時間をかけて丁寧にじっくりと進める事がかなりパーセントを占めるものだと感じた。

今回の跡地利用が三田市に適しているのか、これからの調査、研究が必要だと思うので今回の視察を一つの成功事例として、今後の三田市の課題に繋げていきたい。